
BOOL!!

～＝し～ふ～ど＝～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BOOL!!

【Nコード】

N1941Y

【作者名】

くろしゝふんどし

【あらすじ】

横浜市・・・その地下には《黒影》クロカゲと闘う戦士が集う未来基地があった!?

超近未来SFファンタジーここに開幕!!!!

プロローグ

知ってますか？

神奈川県 横浜市の地下。

400年程前から東京都程の面積をもつその地下には、

不思議な球をもった戦士がいる……と、

その地下は、400年前から超未来的な施設があり、2011年の
今でもできない

技術や、知能を持つ電子機械。

そんな物がいっぱいある、と。

だけど、今や地下鉄が開通し、どれだけ掘ってもそんな物は出てこ
ない、

誰もが迷信だと言っている、その噂。

真実は、誰にも、分らない。

そう……

あの時の俺は、本当に、何も、知らなかったんだ。

あの、一瞬の出来事で、俺は、こんなにも、

変わったんだ。

力も、性格も、環境も、家族も。

デステイニー
運命も。

全ては、あの一つの球^{ボール}から。

――

青白い床の上に立つ、

「行こう。」

「――行こう。」

1、青白い光

プアーーーーー！

そんな音をたててトラックが通りすぎてゆく、
その軽快な音を聞いて、少年は顔をしかめた。

今は午前零時を過ぎる頃、そんな夜中に少年が一人。

「ムカツク・・・つちたあ静かに走れねえのか？」

そう呟き、再び歩き出す。

・・・なぜこんな時間に出歩いているか、簡単だ。

家出。ささいな喧嘩からだった、それも本当にくだらない理由。

数時間前

「おい一樹かずき！！テメエおれのアイス食ったろ！！」

「うるさいな光輝みつひ兄ちゃん、いいだろ？またかってくりや。」

「ああ！？ んだとコラア！」

ぱっぽー

今いるのは光輝のほう、

家で散々暴れた挙句、親にしかられ出てきた。
そういった感じた。

「クソッ！ 苛々する・・・。」

そういつて突き当たりを曲がる、光輝にとってはまったく地理が分からず、唯々知らない道をふらふら歩いているだけだった。

「ん？」

曲がった先にあったのは公園。
今日の宿舎はココだ！！と、勝手に決める、が。

キイイイ、キイイ、キイイ。

ゆらゆらと、ブランコが揺れている、
不気味、と光輝は思ったが、幽霊、超常現象、そういった物に光輝は目がなかった。

ワクワクしながらちかずく、

するとフアツ、と一瞬寒気がした、

いや、そうではない、何かが空を切ったような音、そして風。

「なんだ？」

そちらに顔を向ける、だがやはり、なにもなかった。

不審に思った光輝はその方向に足を向ける。

ドン！

「うわ!？」

なにか、生暖かい物にぶつかった。
今までなにもなかったはず、だが、光輝の前には、『背中』が出現していた。

「え・・・？え？」

少し混乱する、おれってこんな目悪かった？一応Aのはず。
そんな事を考えていたら『背中』から声がした。

「・・・逃げなさい。」

だが、いきなり言われてもよく分からない。光輝は「へ？」と答えた。

がその理由を知ると同時に、「腰が抜ける」の意味を知る。

まず、『背中』、もとい中年のオッサンが青っぽい《斧》を持っている事。

そして、オッサンが向かい合っている相手。

その相手はまさに影、と呼ぶにふさわしかった。
漆黒の体、夜の闇に溶け込んでしまいそうだ。
そしてそのシルエット。

「な……なんだ、コイツ……？」

およそ二メートル、巨大な爪、鋭利な歯。
どこぞのRPGを思わせる風格。

ソイツに、オッサンは飛びかかる。が、飛びかかり方が半端ない。
10メートルほど跳躍し斧を振りかざす。

「おおおおおおおおお！！」

だが、その一撃は影の爪によってはじかれる。

「くっ！」

オッサンは空中で身を翻し、華麗に着地した、

「何してる！早く逃げろ！！！」

オッサンが俺に罵声を浴びせる、だが、出来なかった。

「おい！」

オッサンがもう一度叫ぶ、がそのとき。

ズシャアア！

赤い生命の噴煙が、オッサンのからだから吹き出した。

「ガハアアア！！！」

影が爪で切り裂いた、

「オッサン！！！」

光輝も叫ぶ。

だが、

ズギヤアア！

「あがはあああっ！！！！」

もう一度、断ち切られる。腕と足が千切れて転がる

「うっ！」

光輝は吐きそうになるのを必死でこらえ、彼の元へ駆け寄った。

「おっさあん！！返事しろ！！」

重そうなまぶたを力強くあけて、最後にもう一度

「逃げろ・・・」

と言った。

「おっさん！オイ！おっさん！！おっさん！」

体を揺さぶる。だが、もう目を開けようとはしなかった。

「クソお！」

目の前の影は此方を見据えていた。

光輝は転がっていた斧を持ち上げる。だが、

ギュウウウうん。

その音を立て、斧はみるみる小さくなり、球体へと姿を変えた。

「ボール!？」

球体の戦士、どこかで聞いた事があったが、この状況じゃ思い出せなかった。

球はパリン、と音を立てて崩れ落ちた。

俺・・・ここでこんなヤツに殺されんのか、そう思った。

ちらとおっさんに目をやると彼はなんと、青白い光に包まれていた。

「おっさん・・・?」

その青白い光はみるみる眩しくなり、見ていられなくなった、と。

その光は先ほどの球体となり、少し発光しながらころと転がってきた。

まるで、使ってくれ、と彼が言っているようだった。

それを光輝は手に取る。

影が、爪を振り上げた。

「……さんを……」

消え入りそうな声で……

「おっさんを！」

そう叫ぶ。手の中の球体が輝く。

[illegible]

有らん限りの大声でそう叫ぶ。

大地を揺るがす。

感情に任せて影に飛びかかる。

その『右手』を振りかざした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1941y/>

BOOL!!

2011年11月6日13時24分発行